

自己評価表(令和5年度)(最終)

上浮穴高等学校
学校番号(27)

教育方針	地域の期待に応えるため、高校生として、徳・知・体の調和のある人間づくりを目指すとともに、生徒一人一人をみつめ、その資質・個性に応じた教育を行う。	重点目標	「共に創ろう誇れる上浮穴高」 ～励ましの言葉が響き合う学舎を目指して～ 1 創造力と傾聴力、人を思いやる心の育成 2 確かな学力の育成と進路指導の充実 3 基本的な生活習慣と実践力の育成 4 地域に開かれた信頼される学校づくり
------	--------------------------------------------------------------------------	------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策	
学習指導	わかる授業・鍛える授業の実施	教師	板書や話し方など、従来の指導方法に加え、ICTを活用することで、内容の理解を深めるための授業構成を行う。	B	・「よくできている」27%、「だいたいできている」68%、「あまりできていない」5%という状況である。	・Teamsの機能を活用した授業が浸透し、多くの教員が活用できるようになった。今後は、他校での実践事例等も取り入れ、さらに進化させていきたい。
		生徒	ICTを活用した学習方法の定着を図る。	A	・「よくできている」62%、「だいたいできている」35%、「あまりできていない」3%という状況である。	
		数値目標	1人1台端末の週5日以上利用。	A	オンライン授業の実施により、1人1台端末を毎日活用している。	
	個に応じた指導の徹底	教師	既存内容の「学び直し」を含め、一人一人の実態に合った指導・支援を行う。	B	・「よくできている」50%、「だいたいできている」41%、「あまりできていない」9%という状況である。	・習熟度の高い生徒の進路目標を達成させるために、少人数指導のメリットを生かした授業体制を整えたい。 ・補習内容の改善を図ることで、基礎学力の定着や、個人の能力の伸長を目指す。 ・基礎課外受講者を減らすために、教科によっては、習熟度別の授業等を行うことで、理解力を高める。
		生徒	グループ学習や個別の指導・支援の時間を多く取り入れ、授業で学習した内容の定着を図る。	B	・「よくできている」44%、「だいたいできている」50%、「あまりできていない」7%という状況である。	
		数値目標	基礎課外受講者ゼロ。	B		
	家庭学習の習慣化	教師	ICTを利用した課題配信に努める。	B	・「よくできている」20%、「だいたいできている」50%、「あまりできていない」20%という状況である。 ・現在、ClassiとTeamsを併用して、課題配信や連絡を行っている。家庭学習の活用のためには、生徒が家で必ず端末を確認する生活習慣を身に付けさせる必要がある。 ・家庭学習時間は減少している。繰り返し個別面談を行うことで、進路目標を持たせ、集計だけでなく、個人の推移を個別に考えさせたい。	
		生徒	ICTを利用した家庭学習に努める。	C		
		保護者	家庭での学習環境の整備をお願いする。	B		
		数値目標	平均家庭学習時間 平常時90分以上。考査中240分以上。	C		

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。

生徒指導	基本的なマナーの育成	教師	基本的なマナーを身に付けさせる。	B	・「よくできている」21%、「だいたいできている」46%、「あまりできていない」25%という状況である。	・生徒の「よくできている」という自己評価が高いのに対して、教師や保護者がそう考えていないところがあり、問題があるように思う。その場その場で具体的に適切なマナーや言葉遣いについて具体的に示していく必要を感じる。
		生徒	適切な言葉を遣い、マナーを守って生活する。	B	・「よくできている」52%、「だいたいできている」44%、「あまりできていない」4%という状況である。	
		保護者	子どもに適切な言葉遣いをさせ、マナーを守って生活させる。	B	・「よくできている」36%、「だいたいできている」51%、「あまりできていない」13%という状況である。	
		数値目標	基本的なマナーが守れる生徒の割合(目標値)100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	B	・「よくできている」52%、「だいたいできている」44%、「あまりできていない」4%という状況である。	
	高校生らしい身だしなみの定着	教師	教職員が一致協力して身だしなみ指導を行う。	B	・「よくできている」26%、「だいたいできている」43%、「あまりできていない」22%という状況である。	・生徒の「よくできている」という自己評価が高いのに対し、教師側の評価は厳しいものがある。また、近年、一部の生徒に課題が見られる。規定等も校則検討委員会で見直しつつ、良好な状態を維持していきたい。
		生徒	高校生らしい身だしなみをする。	B	・「よくできている」53%、「だいたいできている」44%、「あまりできていない」2%という状況である。	
		保護者	子どもに高校生らしい身だしなみをさせる。	B	・「よくできている」52%、「だいたいできている」45%、「あまりできていない」4%という状況である。	
		数値目標	身だしなみ指導の生徒合格率(目標値)100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	A	全体の合格率は90%あった。学年が上がるほど合格率が上がる傾向にある。	
	規範意識の育成	教師	社会規範や公衆道徳を守る意識を育てる。	B	・「よくできている」50%、「だいたいできている」29%、「あまりできていない」21%という状況である。	・すべての基本である元氣な挨拶の徹底に一層力を入れていきたい。 ・社会規範という点では、少々過大評価されている感があり、物事の判断がきちんとできる生徒を育てていきたい。
		生徒	校則をはじめ社会のルールをきちんと守って生活をする。	A	・「よくできている」66%、「だいたいできている」33%、「あまりできていない」1%という状況である。	
		保護者	子どもが適正な規範意識を持って行動できるようにする。	B	・「よくできている」51%、「だいたいできている」47%、「あまりできていない」2%という状況である。	
		数値目標	笑顔で挨拶できる生徒の割合(目標値)100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	B	・「よくできている」51%、「だいたいできている」40%、「あまりできていない」9%という状況である。	

人権教育・特別活動	互いの思いやりと自尊感情の高揚	教師	互いに認め合う集団づくりを行い、生徒一人一人を大切に、進路実現に向けての進路保障に努める。	B	・「よくできている」56%、「だいたいできている」40%、「あまりできていない」4%という状況である。	・生徒一人一人の生徒の個性を把握し、各教科で、個別指導の実施、また支援方法を計画し実行するなど、基礎学力の向上に努めながら、全ての生徒が進級・卒業できるよう努めていきたい。 ・様々な困難や悩みを抱えた生徒がいるが、互いの個性を把握し、話し合いながら交流を深め、認め合い、楽しく学校生活を送れるよう指導に努めたい。 ・保護者を含めた家庭における人権意識の向上を目指し、生徒を通じて様々な資料を積極的に配布していきたい。
		生徒	互いの「よさ」や「ちがいを認め、また、周りに大切にされていることを知り、自分も含め思いやりをもって人に接する。	A	・「よくできている」73%、「だいたいできている」25%、「あまりできていない」2%という状況である。	
		保護者	子どもはかけがえない存在であることを伝え、他人への思いやりの心を育てる。	B	・「よくできている」38%、「だいたいできている」49%、「あまりできていない」11%という状況である。	
		数値目標	差別を「しない・させない・許さない」よう心がけている生徒の割合(目標値)100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	A	・「よくできている」73%、「だいたいできている」25%、「あまりできていない」2%という状況である。	
	学校行事への積極的な参加	教師	学校行事において生徒の主体的活動を引き出す。	B	・「よくできている」52%、「だいたいできている」35%、「あまりできていない」13%という状況である。	・生徒は積極的な参加をしたと思う。次年度からは、学校行事を精選しながらも、諸行事への参加を通して、豊かな人間性を育てていきたい。
		生徒	体育祭や文化祭など学校行事に主体的に参加する。	A	・「よくできている」65%、「だいたいできている」27%、「あまりできていない」8%という状況である。	
		保護者	学校行事に関心をもち、子どもが主体的に参加できるように心がける。	B	・「よくできている」54%、「だいたいできている」38%、「あまりできていない」7%という状況である。	
		数値目標	学校行事に主体的に参加している生徒の割合(目標値)100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	A	・「よくできている」65%、「だいたいできている」27%、「あまりできていない」8%という状況である。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。

進路指導	進路先の具体化	教師	生徒一人一人の適性を生かした進路を実現する。	B	・「よくできている」48%、「だいたいできている」52%、「あまりできていない」0%という状況である。	就職希望者は生徒一人あたり2社以上の職場見学及び説明会に参加した。進学希望者も3割が職場見学及び説明会に参加するなど、職業理解を深めたうえで就職・進学指導に取り組むことができた。進学や就職に必要な学力を、より早い段階から個々の生徒に応じて伸ばさせる具体的な方策が必要である。	
		生徒	職場見学・職場体験やオープンキャンパスをもとに、希望する進路(進学・就職)を決める。	B	・「よくできている」44%、「だいたいできている」32%、「あまりできていない」21%という状況である。		
		保護者	進路について子どもと話し合う機会をできるだけ多く持つ。	B	・「よくできている」51%、「だいたいできている」38%、「あまりできていない」7%という状況である。		
		数値目標	就職内定率、希望進学率(目標値)100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	A	希望就職内定率95% 希望進学率100%であった。		
	面接指導の充実	教師	進路に関する面接機会をできるだけ多く設け、生徒の適性を見出す。	B	・「よくできている」43%、「だいたいできている」49%、「あまりできていない」10%という状況である。	就職及び進学に際しての面接指導は集団・個別面接ともに例年どおり実施できた。生徒が将来の展望をより早い段階で持つことができるような個別最適な面接指導を工夫したい。	
		生徒	進路についての話しを教師や保護者と積極的に行う。	B	・「よくできている」55%、「だいたいできている」27%、「あまりできていない」13%という状況である。		
		数値目標	生徒1人に対する年間面接回数(目標値)10回以上(A10回以上B8回以上C5回以上D4回以下)	A	一人あたり10回以上の面接ができた。		
	キャリア教育の充実	教師	生徒の進路実現のため、3年間を見通した計画的な指導を行う。	B	・「よくできている」43%、「だいたいできている」48%、「あまりできていない」10%という状況である。	就職や進学に必要な学力の定着を目指した課外を学校全体で機動的に実施できた。豊富な人的及び物的資源がある地元と協働するキャリア教育を実施し、生徒の職業観をより具体的に養う必要がある。	
		生徒	働くことや職業について関心をもち、多様な経験を積む。	B	・「よくできている」50%、「だいたいできている」38%、「あまりできていない」9%という状況である。		
		保護者	働くことや職業について話し合い、子どもの考えを深める。	B	・「よくできている」44%、「だいたいできている」30%、「あまりできていない」23%という状況である。		
	開かれた学校づくり	地域交流の充実	教師	交流学習を充実させるとともに、公開講座(カルチャー教室)の実施や総合的な探究の時間(くまたん)を積極的に活用することで、地域のために役立つ生徒を育てる。	A	・「よくできている」78%、「だいたいできている」17%、「あまりできていない」4%という状況である。	・森林環境科では積極的な地域交流を行うことができた。一方、普通科での地域交流は、今後の課題であるものの、徐々に、総合的な探究の時間「くまたん」等の活動を通して動き始めている。
			数値目標	地元、久万高原町役場や地域住民との連携のもと、交流学習の実施(年間のべ10回)カルチャー教室の実施(年10回)地域イベントへの生徒の参加(一人平均1回以上)	A	交流学習年間16回実施、カルチャー教室10回実施、地域イベント7回参加という状況である。普通科の地域交流ができた生徒は、72%であった。	
「上高通信」とHPの充実		教師	「上高通信」の確実な作成と、HPは日々更新により、保護者だけでなく町民の方々に広くアピールできるような広報活動をする。	A	・「よくできている」79%、「だいたいできている」17%、「あまりできていない」4%という状況である。	・学校のその時々々の生徒の様子や、興味を持っていただけそうな話題を、頻繁に取り上げ、HPを更新することで、以前に比べ、アクセス数も伸びている。今後は、あらゆる角度から情報提供することで、保護者や地域の方々の手元に届き、目を通していただけるような働きかけを充実させたい。	
		生徒	「上高通信」を確実に保護者に手渡すとともに、HPの閲覧を習慣化する。	B	・「よくできている」26%、「だいたいできている」34%、「あまりできていない」27%という状況である。		
		保護者	「上高通信」や本校のHPの閲覧を習慣化する。	B	・「よくできている」38%、「だいたいできている」38%、「あまりできていない」16%という状況である。		
		数値目標	上高通信年間12回発行 HPアクセス数平均200/1日	B	上高通信12回、保護だより9回、人権デー9回発行することができた。		

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。

開かれた学校づくり	学校行事や授業の公開	教師	体育祭・文化祭・授業公開・PTA行事等に際して、生徒の主体的な活動を見せられる企画・運営を行う。	B	・「よくできている」50%、「だいたいできている」42%、「あまりできていない」8%という状況である。	・今年度は無事、体育祭や文化祭を実施することができ、昨年度よりも多くの保護者の方々に来校いただいた。生徒は、それぞれの行事に真摯に向き合い、活動を充実させた。次年度も、生徒の活躍する姿を見ていただけるよう努めたい。
		生徒	学校行事や授業に主体的に取り組む。	A	・「よくできている」65%、「だいたいできている」27%、「あまりできていない」8%という状況である。	
		保護者	学校行事や授業公開に参加し、学校活動への関心を高める。	B	・「よくできている」26%、「だいたいできている」59%、「あまりできていない」12%という状況である。	
		数値目標	学校行事・授業公開への保護者の参加率50%	B	・文化祭等の学校行事や授業公開などに、参加したいと思うような工夫がなされている。」の問いに対し、「よくできている」26%、「だいたいできている」59%、「あまりできていない」12%という状況である。	
働き方	業務改善	・学年団・教科・各課内での情報交換や連絡を密にし、仕事の質を上げる。 ・IT機器等の有効利用や、仕事の重要度・緊急性の観点から仕分けや整理を行い、業務の効率化を図る。	A	・少人数の職場なので、連絡を密にすることができた。コロナ禍での授業に際しても、一人一台端末の導入により効果的な活用が見られ、業務の効率化を図ることができた。	・テレワークや時差出勤を利用する職員も多く、全体的にそれを温かく容認する雰囲気づくりができています。全職員のワークライフバランスが取れるように次年度も努力していきたい。	
	勤務時間の順守	勤務時間外在校時間を毎月45時間以内とする。 100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	B	昨年度に比べ、退勤時間が早くなったもの、1か月あたり、平均8名程度の教職員が45時間を超えている。		

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。